

2026 年

学 習 の 手 引 き

(1 年生)

専門学校

ベルランド看護福祉大学校

介護福祉学科

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立		授業の種類 （ <u>講義</u> ・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルアモール 浦 慶子（ソーシャルワーカー・20年以上） アンサンプル介護相談センター 杉本 亮（ケアマネジャー・10年以上） アンサンプル介護相談センター 田中 あすか（ケアマネジャー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択		
[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳や人権尊重、及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通し、その生活を支える必要性を理解する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 人権思想、福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳や人権尊重及び権利擁護考え方を養う。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①人間の尊厳と人権・福祉理念 人間の尊厳と利用者主体	第1章 第1節	講義	浦	筆記試験 20%
2	人権思想の潮流とその具現化				
3	人権や尊厳に関する日本の諸規定				
4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷	第1章 第1節	講義	杉本	筆記試験 40%
5	戦後の新たな福祉のあり方への模索				
6	ノーマライゼーション ソーシャルインクルージョン				
7	QOLの考え方 生命倫理				
8	人権尊重と権利擁護				

9	小テスト・解説				
10	②自立の概念 自立の概念の多様性	第1章 第2節	講義	田中	筆記試験 40%
11	自立とは				
12	介護を必要とする人の自立と自立支援				
13	I C F の考え方 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立 自立支援の関係性				
14	演習 1 - 3 自立にかかせないもの、自立支援に必要な視点を参考		GW 演習		
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーションⅠ		授業の種類 （ <u>講義</u> ）・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳 （専任教員[ケアマネジャー・5年以上]） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年生 後期		<u>必修</u> ・選択		
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成のために必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 自己理解や他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。 また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。介護実践のために必要な組織内においてのコミュニケーションについて理解できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎		第2章 第1節	講義	月木	筆記試験 100%
2	人間と人間関係、自分と他者の理解					
3	発達心理学・社会心理学からみた人間関係					
4	人間関係とストレス					
5	価値観の違いを考える					
6	コミュニケーションの概念・基本構造		第2章 第2節			
7	コミュニケーションの手段					
8	関係性によるあいさつの違いと含まれるメッセージについて考える・非言語の種類とメッセージについて考える					
9	コミュニケーション					
10	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション		第2章 第3節			
11	対人援助における基本的態度					
12	傾聴について考える					
13	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則					
14	バイステックの7つの原則について考える		第2章 第4節			
15	組織の条件とコミュニケーションの特徴					
	組織において求められるコミュニケーション 復習					

[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」	[単位認定の方法及び基準] 筆記試験
---	----------------------------------

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅰ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルタウン介護相談センター 中川 健一（ケアマネジャー・20年以上） ベルヴィオロン 松浦 伸介（ソーシャルワーカー・10年以上） ベル介護相談センター 高野 雄史（ケアマネジャー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択		
[授業の目的・ねらい] ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉え生活の場としての地域という観点から、地域共生社会・地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。また、日本の社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助、互助、共助、公助の展開について理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみや制度、施策を理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①社会と生活のしくみ 生活の基本機能 生活の概念、機能	第1章 第1節	講義	中川	筆記試験 40%
2	ライフスタイルの変化 雇用形態の変化、働き方改革等	第2節			
3	家族 構造と形態、機能と役割、家族間の多様性	第3節			
4	社会、組織 機能と役割、組織化	第4節			
5	地域、地域社会 コミュニティ、集団、組織	第5節			

6	地域社会における生活支援 ソーシャルサポート	第6節			
7	②地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉の発展 地域福祉の理念、推進	第2章 第1節	講義	松浦	筆記試験 25%
8	地域共生社会 地域共生社会の理念、実現への取り組み	第2節			
9	地域包括ケア 地域包括ケアシステム	第3節			
10	市町村の行政計画（グループワーク）	第2章	演習		
11	③社会保障制度 社会保障の基本的な考え方 概念と範囲、役割と意義、理念	第3章 第1節	講義	高野	筆記試験 35%
12	日本の社会保障制度の発達 基本的な社会保障制度の考え方、社会保障の 基盤	第2節			
13	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解 社会保障の組織、特徴、種類等	第3節			
14	現代社会における社会保障制度の課題 人口動向の変化、社会保障の給付、構造改革	第4節			
15	総合復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第2巻 「社会の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 家政学		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルピアノ病院 録家 時子（管理栄養士・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期・後期	(必修)・選択		
[授業の目的・ねらい] 衣食住・消費生活等に関する基本的な知識の学習を行う。日常生活を営む上で必要な生活経営管理、家庭経済、食生活、被服生活、住環境等の専門的な知識を理解し、なおかつ介護を必要とする高齢者や障害者の生活とを結びつけて理解させる。 [授業全体の内容の概要] 生活経営管理、家庭経済、食生活、被服生活、住環境等の基礎的な知識、また、介護実践において必要な技術を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活経営管理、家庭経済、食生活、被服生活、住環境等の内容が理解できる。また、必要な技術を実践できることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	被服の役割と機能	第5章 第1節 第2節 第3節	講義	録家	筆記試験 100%
2	被服の選択と管理				
3	被服の素材				
4	高齢者、障害者の被服				
5	家庭周期とライフコース、生活設計				
6	生活資源と家庭管理、家事労働と介護労働				
7	生活行動と生活空間 快適な室内環境	第2章 第2・3節 第5章 第2節			
8	復習				
9	食事の意義と目的	第5章	講義		

		第1節 第2節			
10	各国食文化・食生活・栄養の理解				
11	食費 ゴミの分別方法				
12	高齢者、障害者の食生活				
13	生活と食事、栄養素、生体リズム等、健康の概念				
14	食品分類と成分表、食の安全性				
15	食事と生活習慣病、設備、調理器具				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 新介護福祉士養成講座 第6巻 「生活支援技術Ⅰ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 横田 貴美江 (専任教員【ケア・20年以上】) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期		(必修)・選択	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士を取り巻く状況や背景を理解する。また、介護の意義と役割、専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢を身につける。					
[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念、介護福祉士の役割と機能、尊厳を支え自立に向けた介護の展開。介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての基本となる考え方を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 複雑化、多様化、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できる。地域や施設、在宅の場、介護予防、看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できる。ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師
					評価

	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
	<u>①介護福祉の基本となる理念</u>				
1	介護とは何か	第1章	講義	横田	筆記試験
2	介護を取り巻く状況①		演習		100%
3	介護を取り巻く状況②				
4	介護福祉の歴史①				
5	介護福祉の歴史②				
6	社会福祉政策 年代別における介護サービスの 変遷				
7	介護福祉の基本理念				
8	権利と尊厳を支える介護				
9	自立支援 自己決定を支える介護				
10	まとめ（小テスト）				
	<u>②介護福祉士の役割と機能</u>				
11	介護福祉士の法的理解と役割	第2章	講義	横田	
12	介護福祉士及び介護福祉法「義務規定」について		演習		
13	介護福祉士に求められる像の理解				
14	介護福祉士に求められる像について考える				
15	介護福祉士を支える団体				
16	まとめ（小テスト）				
	<u>④自立に向けた介護</u>				
17	介護福祉における自立支援の意義、考え方	第4章	講義	横田	
18	利用者理解の視点、意思決定支援、自立と生活 支援		演習		
19	ICFの考え方				
20	介護におけるICFの捉え方				
21	ICF事例検討				
22	リハビリテーションとは				
23	自立支援とリハビリテーションの実際				
24	障害の理解と評価				
25	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割				
26	介護予防の概要、種類と展開				
27	高齢者の身体特性と介護予防				
28	自立支援と介護予防における介護福祉士の役割				
29	まとめ				
30	復習				

[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」	[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題
--	---

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 横田 貴美江 (専任教員 [キャリア・20年以上]) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択			
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする高齢者や障害者の生活環境を理解させる。また、提供するサービスとケアマネジメント、ケアプランとの関連性を総合的に理解させる。						
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりについて理解を深める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護を必要とする人の生活の個別性に対応する為に、生活の多様性や社会とのかかわりが理解できる。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できる。ケアプランのマネジメントの流れを理解できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1	<u>①介護を必要とする人の理解</u> 生活の個別性と多様性の理解		講座[4] 第1章	講義 演習	横田	筆記試験 100%
2	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし					
3	介護福祉を必要とする障害者の暮らし					
4	生活を支える基盤					
5	生活ニーズの理解					
6	家族、地域とのかかわり					
7	生活のしづらさの理解とその支援					
8	<u>②介護を必要とする人の生活を支える仕組み</u> 地域包括ケアシステム		講座[4] 第2章	講義 演習		
9	フォーマルな支援の活用 高齢者 障害者					

10	インフォーマルサービス				
11	地域連携の意義と目的				
12	介護サービス概要 ケアプランとマネジメントの流れと仕組み 1				
13	ケアプランとマネジメントの流れと仕組み 2				
14	介護サービス概要 介護保険サービスの種類				
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第3巻 「介護の基本Ⅰ」 第4巻 「介護の基本Ⅱ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術Ⅰ		授業の種類 （ <u>講義</u> ・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳 （専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） サンガーデン府中 戸倉 聡（ケアワーカー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択		
[授業の目的・ねらい] 介護実践のために必要な人間の理解や、介護実践に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。 [授業全体の内容の概要] コミュニケーションの基礎的な知識、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識や技術を習得する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	<u>①介護を必要とする人のコミュニケーション</u> 介護におけるコミュニケーションと対象	第1章 第1節 第2節	講義	月木	筆記試験 50%
2	援助関係とコミュニケーション	第3節			
3	コミュニケーション態度に関する基本技術	第2章 第1節			
4	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	第2節			
5	目的別のコミュニケーション 動機付け、ものの見方に変化を生み出す技術	第3節			
6	目的別のコミュニケーション 意思決定を支援するためのコミュニケーション				

7	集団におけるコミュニケーション技術	第4節			
8	②障害の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害への対応の基本	第3章 第1節	講義	戸倉	筆記試験 50%
9	さまざまなコミュニケーション障害のある 人への支援 視覚障害、聴覚障害	第2節			
10	構音障害、失語症				
11	うつ病・抑うつ状態、統合失調症				
12	高次脳機能障害				
13	認知症①				
14	認知症②				
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第5巻 「コミュニケーション技術」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 (<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者（職種・実務経験）有 ベルアルト 栗田 彩子（ケアワーカー・20年以上） ベルファミリア 小川 晴文（ケアワーカー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
------------------------------	-------------------------------	---

授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択
--------------	-----------------------	-----------------	---------------

[授業の目的・ねらい]

介護実践における、「共通理解」が可能であるためには、チームケアや多くの専門職種間でのコミュニケーションや報告、連絡、相談、及び会議が重要であり、情報活用と管理の重要性を理解する。

[授業全体の内容の概要]

コミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーション、チームにおける情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識や技術を習得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術や家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	<u>①障害の特性に応じたコミュニケーション</u> さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 知的障害、発達障害	第3章 第2節	講義	栗田	筆記試験 35%
2	重症心身障害				
3	<u>②介護における家族とのコミュニケーション</u> 家族との関係づくり	第4章 第1節			
4	家族への助言・指導・調整の基本	第2節			
5	家族関係と介護ストレスへの対応	第3節			
6	<u>③介護におけるチームのコミュニケーション</u> チームのコミュニケーションとは	第5章 第1節	講義	小川	筆記試験 65%
7	報告・連絡・相談の技術	第2節			

8	記録の技術 記録の意義、目的、種類	第3節	講義	小川	
9	記録の方法と書き方、実際				
10	会議・議事進行・説明の技術 会議とは、会議の議事進行	第4節			
11	チームにおける説明の技術				
12	事例検討に関する技術 事例検討を行う意義・目的 事例検討におけるコミュニケーションの 基本姿勢、 事例検討会の実践的展開	第5節			
13	事例検討会のときに必要となる問題解決 の手法 事例検討会での注意点、事例検討と支援 方法				
14	情報の活用と管理のための技術	第6節			
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第5巻 「コミュニケーション技術」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 千原 雄一郎 （専任教員【ケアワーカー・20年以上】） 横田 貴美江 （専任教員【ケアワーカー・20年以上】） 月木 昌徳 （専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期	必修・選択		
[授業の目的・ねらい] 寝具衛生管理は、よりよい生活環境を提供するために必要である。その必要性を学び、さらに具体的方法を習得しなければならない。 介護福祉士として習得しておく必要のある様々な「移動」「身じたく」における介護技術の根拠性と知識、技術の基礎を学び、実践で活用できる能力を習得させる。 [授業全体の内容の概要] それぞれの技術の基礎知識を学び、実践的技術を身につける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。またベッドメイキング・移動・身じたく・福祉用具の活用においての実践の根拠について、説明することができる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①生活支援の理解	講座[6] 第1章	講義	横田	筆記試験 25%
2	生活支援の基本的な考え方				
3	生活支援と介護過程				
4	生活支援とチームアプローチ	講座[7] 第5章	講義		
	②自立に向けた家事の介護	講座[6] 第2章			
	寝具の管理の意義と目的、アセスメント				
	③休息・睡眠の介護				
	室内環境の調整				

5	④休息・睡眠の介護	講座[7] 第5章	演習		
6	ベッドメイキングの基本①				
7	ベッドメイキングの基本②				
8	ベッドメイキングの応用①				
9	⑤自立に向けた移動の介護	講座[6] 第3章	講義 演習	月木	筆記試験 50%
10	移動の意義と目的				
11	移動に関するアセスメント				
12	ベッド上移動①				
13	ベッド上移動②				
14	体位変換①				
15	体位変換②				
16	車椅子での移動①				
17	車椅子での移動②				
18	移乗介助の理解①				
19	移乗介助の理解②				
20	歩行を支える介助①				
21	歩行を支える介助②				
22	復習				
23	まとめ				
24	⑥自立に向けた身じたくの介護	講座[7] 第1章	講義 演習	千原	筆記試験 25%
25	身じたくの意義と目的				
26	身じたくに関するアセスメント				
27	整容				
28	口腔ケア				
29	着脱（座位による着脱介助）				
30	着脱（ベッド上での着脱介助・パジャマ）				
31	着脱（ベッド上での着脱介助・寝巻き）				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第6・7巻 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」		授業態度、筆記試験、実技試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 千原 雄一郎 （専任教員【ケアワーカー・20年以上】） 月木 昌徳 （専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） 横田 貴美江 （専任教員【ケアワーカー・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年生後期	必修・選択		
[授業の目的・ねらい] 入浴・清潔保持、排泄、食事の介護の必要性を学び、さらに具体的方法を習得しなければならない。介護福祉士として習得しておく必要のある介護技術の根拠性と知識、技術の基礎を学び、実践で活用できる能力を習得する。					
[授業全体の内容の概要] それぞれの技術の基礎知識を学び、実践的技術を身につける。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 入浴・清潔保持、排泄、食事の介護の必要性が理解でき、実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①自立に向けた入浴・清潔保持の介護	講座[7] 第3章	講義	千原	筆記試験 20%
2	入浴・清潔保持の意義と目的				
3	入浴①				
4	入浴②				
5	清拭①				
6	清拭②				
7	ベッド上での洗髪、手浴、足浴				
8	まとめ				
9	②自立に向けた排泄の介護	講座[7] 第4章	講義	月木	筆記試験 40%
10	排泄の意義と目的				
11	排泄に関するアセスメント				
12	トイレ①				
13	ポータブルトイレ①				

14	ポータブルトイレ②				
15	差し込み便器・採尿器①				
16	差し込み便器・採尿器②				
17	オムツ①				
18	オムツ②				
19	失禁や失便時の対応方法				
20	まとめ				
21	<u>③自立に向けた食事の介護</u>				
	食事の意義と目的	講座[7] 第2章	演習	横田	筆記試験 40%
22	食事に関するアセスメント				
23	食事摂取の基本的知識				
24	誤嚥の予防と対応				
25	自分で食事ができる場合の介助				
26	座位による身体機能低下者への食事介助				
27	ベッド上での食事介助				
28	視覚障害者への食事介助				
29	認知症高齢者への食事介助				
30	口腔衛生				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第7巻 「生活支援技術Ⅱ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、実技試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 （職務・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 横田 貴美江 （専任教員【カワーカー・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択		
[授業の目的・ねらい] 高齢者等の休息・睡眠、福祉用具に関して理解させる。その人らしさや心身状況に応じた睡眠の在り方や、福祉用具の活用方法について理解し、専門職としての介護能力を高める。 [授業全体の内容の概要] 利用者の心身状況や個別性に応じた休息の在り方や、安眠について学ぶ。また、様々な場面において臨機応変な福祉用具の活用ができる介護を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者等の休息・睡眠、福祉用具に関する知識や技術を理解し、習得できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①休息・睡眠の介護	講座[7] 第5章	講義 演習	横田	筆記試験 100%
2	睡眠の意義と目的				
3	睡眠に関するアセスメント				
4	睡眠障害とは				
5	安眠のための環境作り、体位と用具				
6	安楽な姿勢とは				
7	休息・睡眠の介護における多職種との連携 まとめ				
8	②福祉用具の意義と活用	講座[6] 第4章	講義 演習	横田	
9	福祉用具と制度				
10	福祉用具の意義や今後の可能性				
11	福祉用具のリスクと管理				
12	福祉用具の種類と活用方法①				
13	福祉用具の種類と活用方法②				
14	福祉用具の種類と活用方法③				
15	福祉用具活用の多職種連携 まとめ				

[使用テキスト・参考文献]

中央法規出版 最新介護福祉士養成講座
第6・7巻 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」

[単位認定の方法及び基準]

授業態度、筆記試験、実技試験、レポート課題

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ		授業の種類 (<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 千原 雄一郎 (専任教員 [ケアラー・20年以上]) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択

[授業の目的・ねらい]

他の科目で学習した知識や技術を踏まえ、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養うために、まず意義と展開方法を理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護過程の意義や目的、目標、情報収集、アセスメント、課題設定、計画の立案、実施、評価。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護過程の意義と目的及び、展開するための一連のプロセスを理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <u>① 介護過程の意義と基礎的理解・②介護過程とチームアプローチ</u>				
1	介護過程の意義 日常生活で体験する問題解決過程	第1章	講義		
2	介護実践における介護過程の必要性				
3	介護過程の目的、目標①	第2章	講義		
4	介護過程の目的、目標②		演習		
5	ニーズとは何か・要望とニーズ				
6	生活上のニーズ				
7	生活上のニーズと生活上の課題				
8	アセスメントの意味①			千原	筆記試験
9	アセスメントの意味②				100%
10	アセスメントにおける情報とは①				
11	アセスメントにおける情報とは②				
12	情報から判断を導くには①				
13	情報から判断を導くには②				
14	情報から判断を導くには③				
15	情報から判断を導くには④				

16	チームアプローチにおける介護福祉士の役割				
17	生活上の課題の優先順位①				
18	生活上の課題の優先順位②				
19	介護計画の立案①				
20	介護計画の立案②				
21	介護計画の実施①				
22	介護計画の実施②				
23	介護計画の評価①				
24	介護計画の評価②				
	<u>②介護過程の展開の理解</u>				
25	実践的展開 一連の介護過程まとめ	第3章	講義 演習		
26	ICFモデル				
27	事例1				
28	事例2				
29	事例3				
30	まとめ				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第9巻 「介護過程」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 千原 雄一郎 (専任教員【ブリーダー・20年以上】) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う			
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年後期		(必修・選択)			
[授業の目的・ねらい] 介護過程Ⅰで習得した展開方法、思考過程を活用し、生活支援技術に沿った内容での事例の展開を行う。							
[授業全体の内容の概要] 生活支援技術で行う内容それぞれの事例を課題とし、介護過程の実践的展開を行う。どういったことに視点を置きニーズ抽出、計画作成ができるのかを事例をもとに練習を行い、実践力を身につける。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 展開方法を理解し、それぞれの生活場面での介護過程展開を行うことができる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]							
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]							
①介護過程の展開の理解							
1	事例1（身支度）より 情報収集		第2章	講義 演習	千原	筆記試験 100%	
2	事例1（身支度）より 分析						
3	事例1（身支度）より ニーズの抽出		第3章				
4	事例1（身支度）より 計画作成						
5	事例1（身支度）より 評価						
6	事例1（移動、移乗）より 情報収集						
7	事例2（移動、移乗）より 分析						
8	事例2（移動、移乗）より ニーズの抽出						
9	事例2（移動、移乗）より 計画作成						
10	事例2（移動、移乗）より 評価						
11	事例3（食事）より 情報収集						
12	事例3（食事）より 分析						
13	事例3（食事）より ニーズの抽出						
14	事例3（食事）より 計画作成						
15	事例3（食事）より 評価						
16	事例4（入浴）より 情報収集						
17	事例4（入浴）より 分析						

18	事例 4（入浴）より	ニーズの抽出	第2章	講義 演習		
19	事例 4（入浴）より	計画作成				
20	事例 4（入浴）より	評価				
21	事例 5（排泄）より	情報収集				
22	事例 5（排泄）より	分析				
23	事例 5（排泄）より	ニーズの抽出	第3章			
24	事例 5（排泄）より	計画作成				
25	事例 5（排泄）より	評価				
26	事例 6（アクティビティ）より	情報収集				
27	事例 6（アクティビティ）より	分析				
28	事例 6（アクティビティ）より	ニーズの 抽出				
29	事例 6（アクティビティ）より	計画作成				
30	事例 6（アクティビティ）より	評価				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第9巻 「介護過程」			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳 （専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	必修・選択			
[授業の目的・ねらい] 介護実習の教育効果を上げるために、介護実習前のオリエンテーション、実習後の報告会または、実習期間中に学生が養成施設で学習をする日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。また介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
[授業全体の内容の概要] 専門科目で得た基礎的知識や技術を、実習を通じて実践するための具体的方法を学ぶ。介護保険施設、障害福祉サービス事業所等の事前学習を行い、実習課題や到達するための具体的方法を学生自身が考えていくように指導する。また、実習終了後の報告、反省、課題達成への集団、個別指導の時間とする。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 施設の概要、役割等が理解でき、そこを利用する人々の状況が把握できる。また、実習施設の種別による課題と、それに合わせた個人の課題を繋げ考えることができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ①知識と技術の統合					
1	実習とは何か、実習の意義と目的		第1章 第2章	演習	月木	レポート 課題 100%
2	実習の分類と方法、各実習の分類の意味、実施方法等					
3	実習の心得、マナー、接遇等					
4	実習施設の理解 介護老人福祉施設、介護老人保健施設 通所リハビリテーション、グループホーム （看護）小規模多機能型居宅介護 等					
5	介護実習Ⅰ－a 課題検討、設定、個人票作成					
6	記録1					
7	記録2					
8	実習前オリエンテーション					
9	介護実習Ⅰ－a 振り返り					
10	介護実習Ⅰ－b 課題検討、設定、個人票作成					
11	記録1					
12						

13	記録2				
14	総合学習				
15	実習前オリエンテーション				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第10巻 「介護総合演習・介護実習」		[単位認定の方法及び基準] 各レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	授業担当者（職務・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳 （専任教員[ケアマネジャー・5年以上]） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う			
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択			
[授業の目的・ねらい] 介護実習の教育効果を上げるために、介護実習前のオリエンテーション、実習後の報告会または、実習期間中に学生が養成施設で学習をする日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。また介護観を形成し、専門職としての態度を養う。						
[授業全体の内容の概要] 専門科目で得た基礎的知識や技術を、実習を通じて実践するための具体的方法を学ぶ。介護保険施設、障害福祉サービス事業所等の事前学習を行い、実習課題や到達するための具体的方法を学生自身が考えていくように指導する。また、実習終了後の報告、反省、課題達成への集団、個別指導の時間とする。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 施設の概要、役割等が理解でき、そこを利用する人々の状況が把握できる。また、実習施設の種別による課題と、それに合わせた個人の課題を繋げ考えることができる。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践の意義や方法について理解できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ①知識と技術の統合			第4章	演習	月木	レポート 課題 100%
1	介護実習Ⅰ－b 振り返り1					
2	振り返り2					
3	介護実習Ⅰの総括 介護老人福祉施設、介護老人保健施設					
4	通所リハビリテーション、グループホーム、 （看護）小規模多機能型居宅介護 等					
5	介護に係る施設（事業所） 養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウス）					
6	有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅					
7	障害福祉サービス事業所 等					
①知識と技術の統合、②介護実践の科学的探究						
8	介護実習Ⅱに向けて 介護実習ⅠとⅡの違いとは					
9	介護実習Ⅱ－a 課題検討1					

10	課題検討 2				
11	課題設定、個人票作成				
12	記録 1				
13	記録 2				
14	記録 3				
15	実習前オリエンテーション				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第 10 巻 「介護総合演習・介護実習」		[単位認定の方法及び基準] 各レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ		授業の種類 （講義・演習・ 実習 ）	授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳（専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） 千原 雄一郎（専任教員【ケアマネジャー・20年以上】） 横田 貴美江（専任教員【ケアマネジャー・20年以上】） 近藤 晃代（専任教員【看護師・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
授業の回数 a 5日間 b 10日間	時間数(単位数) 40時間（1単位） 80時間（2単位）	配当学年・時期 1年前期 1年前期	必修・選択 必修科目 必修科目
[授業の目的・ねらい] 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において利用者や家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。生活と地域との関りや、地域での生活を支える関係機関の役割を知り、地域における生活支援の実践を学ぶ内容とする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 介護保険法や障害者総合支援法の施設において、aでは5日間、bでは10日間の実習を行い、②多職種協働の実践や、③地域における生活支援の実践について学ぶ。 ○施設内オリエンテーション、各セクションの案内、各職種の業務や機能の理解、地域活動状況の確認 等 ○日常業務を通し、利用者の生活全般の理解 ○職員と利用者との接し方を観察し、それに対する利用者の反応等を観察 ○多くの利用者と接しながらそれぞれの特性を観察しどのように関わるか、共感的理解を意識したコミュニケーション技法の実践 ○多職種協働や地域における生活支援の場を学ぶ ○生活支援技術の確認 ○介護者としての姿勢を学ぶ			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 10		[単位認定の方法及び基準] 施設評価、実習記録、	

介護総合演習・介護実習	実習巡回指導時の学習態度
-------------	--------------

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 月木 昌徳（専任教員【ケアマネジャー・5年以上】） 千原 雄一郎（専任教員【ケアラー・20年以上】） 横田 貴美江（専任教員【ケアラー・20年以上】） 近藤 晃代（専任教員【看護師・20年以上】） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 a 20日間 b 25日間	時間数(単位数) a 160時間（4単位） b 200時間（5単位）	配当学年・時期 1年後期 2年前期		必修・選択 必修科目 必修科目	
[授業の目的・ねらい] 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 個別ケアを理解し、利用者や家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割の理解を深める。また、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、多科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身につける。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える多機関、多職種との協働を通じてチームケアにおける介護福祉士としての役割を理解する。介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、地域における生活支援を実践的に学ぶ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 介護保険法や障害者総合支援法の入所施設にて、aは20日間、bでは25日間の実習を行い、②多職種協働の実践や、③地域における生活支援の実践の理解を深める。また、①介護過程の実践的展開を通じて、その思考過程や個別ケアの理解を深める。多職種協働（チームケア）での介護福祉士としての役割や、自身の介護観を構築する。 ○生活支援技術の確認と実践 ○多職種協働と、地域における生活支援の理解を深める ○介護過程の実践 a、b共通 ・利用者の抱える課題について注目しながら、コミュニケーションを図る。 ・情報収集・アセスメントを行い、利用者の課題を明確にする。 b ・職員の助言や指導をもとに、利用者の意向を取り入れた計画の立案。 ・利用者の状態に合せながら計画を実行、評価を行い、計画の継続や改善点を考察する。					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 10			[単位認定の方法及び基準] 施設評価、実習記録、		

介護総合演習・介護実習	実習巡回指導時の学習態度
-------------	--------------

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ	授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)	授業担当者（職種・実務経験）有 サンガーデンハウス 横田 太一郎（ケアワーカー・10年以上） ベルライブ 橋本 和樹（ケアワーカー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
---------------------------	------------------------------	--

授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期 後期	<u>必修</u> ・選択
--------------	-----------------------	--------------------	---------------

[授業の目的・ねらい]

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	① <u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 成長発達の考え方 原理原則	第1章 第1節 第2節	講義	横田	筆記試験 50%
2	成長発達に影響する要因 遺伝環境要因	第3節			
3	人間の発達段階発達課題 発達理論	第2章 第1節			
4	発達段階と発達課題	第2節			
5	身体的機能の成長と発達について	第3節			
6	心理的機能の発達について	第4節			
7	社会的機能の発達について	第5節			

8	老年期の特徴と発達課題 老年期の定義 老化とは	第3章 第1節 第2節	講義	橋本	筆記試験 50%
9	老年期の発達課題	第3節			
10	老年期をめぐる今日的課題	第4節			
11	②老化に伴うこころとからだの変化と生活 老化にともなう身体的な変化と生活への 影響1	第4章 第1節			
12	老化にともなう身体的な変化と生活への 影響2				
13	老化にともなう心理的な変化と生活への 影響	第2節			
14	老化にともなう社会的な変化と生活への 影響	第3節			
15	まとめ復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 新介護福祉士養成講座 第12巻 「発達と老化の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルファミリア 角谷 俊明（ケアワーカー・20年以上） ベルファミリア 本田 学（ケアワーカー・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	必修 選択		
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。					
[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を理解する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解できる。医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	① 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史	第3章 第1節	講義	角谷	筆記試験 50%
2	認知症ケアの理念と視点	第2節			
3	認知症のある高齢者の現状と今後 地域生活支援	第1章 第1節 第6章1節			
4	認知症に関する行政の方針と施策	第6章 第1節			
5	② 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症とは何か	第1章 第1節 第2節			
6	脳の仕組み	第3節			
7	認知症の様々な症状	第1章 第2節 第2章 第1・2・3節			

8	認知症の検査・診断	第2章 第4節	講義	本田	筆記試験 50%
9	認知症と鑑別すべき症状・疾患	第5節			
10	認知症の原因疾患と症状				
11	若年性認知症				
12	認知症の治療	第6節			
13	認知症の予防	第7節			
14	認知症の人の心理	第1章 第4節			
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第13巻 「認知症の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者（職種・実務経験）有 ベルライブ 川端 佑典 (ケアワーカー・10年以上) ベルアルプ 後迫 英和 (ケアワーカー・10年以上) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
-------------------------	----------------------	---

授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	必修 選択
--------------	-----------------------	-----------------	-------

[授業の目的・ねらい]

認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

認知症の理解Ⅰで得た知識を踏まえ、日常生活への影響や利用者個々の特性を踏まえた具体的な支援方法を理解し、地域で生活する認知症のある人とその家族への支援、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができる。認知症の人を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。認知症の人を支える家族の課題を理解し、受容段階や介護力に応じた支援に繋ぐことができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	①認知症に伴う生活への影響と認知症ケア 認知症に伴う生活への影響	第3章 第3節	講義	川端	筆記試験 50%
2	認知症ケアの実際パーソン・センタード・ケア	第2節			
3	特性を踏まえたアセスメント	第4章 第1節			
4	認知症の人とのコミュニケーション	第2節			
5	認知症の人への生活支援	第3節			
6	認知症の人への様々な関わり	第4節			
7	認知症の人の終末期医療と介護	第5節			

8	環境づくり	第6節			
9	②連携と協働 地域におけるサポート体制 地域包括支援センターの役割・機能コミュニティ、地域連携、ボランティア	第6章 第1節	講義	後迫	筆記試験 50%
10	認知症の人の地域生活支援	第2節			
11	多職種連携と協働 多職種連携と協働の基本的な考え方				
12	多職種連携と協働に必要な要素 認知症ケアに携わる多職種チーム				
13	③家族への支援 認知症の人を介護する家族の状況	第5章			
14	家族への支援				
15	復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第13巻 「認知症の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅰ		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルファミリア 松元 篤 (ケアワーカー・20年以上) ベルアモール 野村 勇二 (ケアワーカー・20年以上) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期 後期	必修 選択		
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。また、医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 (2) 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	主な内容	テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	① 障害の基礎的理解 障害の概念について	第1章 第1節	講義	松元	筆記試験 25%
2	障害者福祉の基本理念について	第2節			
3	障害者福祉に関連する制度	第3節			
4	障害者福祉制度と介護保険制度	第4節			
5	②障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 ③障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害のある人の心理	第2章 第1節	講義	野村	筆記試験 75%
6	肢体不自由（運動機能障害）	第2節			
7	視覚障害	第3節			

8	聴覚・言語障害	第4節			
9	重複障害	第5節			
10	内部障害 心臓機能障害	第6節			
11	内部障害 呼吸器機能障害				
12	内部障害 腎臓機能障害				
13	内部障害 膀胱・直腸機能障害				
14	内部障害 小腸機能障害				
15	まとめ 復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 新介護福祉士養成講座 第14巻「障害の理解」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 近藤 晃代 (専任教員 [看護師・20年以上]) ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択			
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] こころとからだのしくみⅠ ア こころのしくみの理解		序章 第1章	講義 講義 演習	近藤	筆記試験 100%
2	「健康」とは何か：健康の定義や、様々な状況下にある人の健康観について知る					
3	人間の欲求とは何か： ①基本的欲求について ②社会欲求について ③自己実現について 自己実現と尊厳について： 活動するうえで欲求と尊厳、尊厳を守るため必要性について学ぶ					
4	こころとからだのしくみからだのしくみⅠ こころのしくみの理解 からだのしくみの理解		第1章			
5	「こころ」とは何か：脳とこころの関係・機能について学ぶ 脳の機能感情や意欲・動機付け適応の仕組みに					

6	ついて学ぶ からだの仕組みについて： からだのつくり・構造・機能について学ぶ (内臓・骨格・骨格筋の名称)	第2章			
7	細胞について、遺伝について				
8	脳・神経				
9	感覚器				
10	骨・関節				
11	筋肉・神経系				
12	呼吸器・循環器				
13	消化器・泌尿器				
14	生殖器・内分泌				
15	血液・体液・リンパ液	生命維持する仕組み			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第11巻 「こころとからだのしくみ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 （講義）・演習・実習）		授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 近藤 晃代 （専任教員〔看護師・20年以上〕） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択			
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
[授業全体の内容の概要] こころとからだのしくみⅠの知識を基に、利用者の身じたくや移動、などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
回	主な内容		テキスト	教授方法	担当講師	評価
1	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] こころとからだのしくみⅠ イからだのしくみの理解		第3章	講義	近藤	筆記試験 100%
2	生命を維持するしくみ ホメオスタシス					
3	バイタルサイン					
3	介護福祉士に必要な薬の知識					
	こころとからだのしくみⅡ 移動に関連した					
	こころとからだの仕組み					
4	移動のしくみ 基本的な姿勢					
5	移動に関連したこころ・からだの仕組み：					
	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 1					
6	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 2					
7	移動に関連したこころとからだのしくみ；					
	変化の気づきと対応					
8	医療職との連携					
	身じたくに関連したこころとからだのしくみ					

9	身じたくの仕組み・みじたくに関連したこころのしくみ	第4章			
10	身じたくに関連したからだのしくみ 1				
11	身じたくに関連したからだのしくみ 2				
12	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響				
13	変化の気づきと対応： 身じたくでの観察ポイント				
14	医療職との連携のポイント				
15	まとめ・復習				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 第11巻 「こころとからだのしくみ」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、レポート課題			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア基本研修Ⅰ		授業の種類 （講義・演習・実習）	授業担当者（職種・実務経験）有 ベルランド看護福祉大学校 近藤 晃代（専任教員【看護師・20年以上】） 生長会法人本部事務局 谷口 淳子（看護師・20年以上） ※上記の実務経験をもとに、教育を行う
授業の回数 40回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年生前期・後期	必修・選択 必修科目
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、倫理を遵守し、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「<u>個人の尊厳と自立</u>」、「<u>医療的ケアの倫理上の留意点</u>」、「<u>医療的ケアを実施するための感染予防</u>」、「<u>安全管理体制</u>」等についての基礎的な知識を理解する [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 安全安楽に実施するための知識を理解する 2. 対象の倫理を尊重する態度を養う 3. たんの吸引・経管栄養時の技術を習得する 4. たんの吸引・経管栄養の技術が実施できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 【講義】 <u>1.人間と社会</u> 1) 介護職と医療的ケア ① 介護職の専門的役割と介護の倫理 ② 介護職員が医療的行為を行うに至った背景と意義 ③ 医療的行為をする上で、介護職に重要なこと ④ 介護職と医療職の連携 2) 介護福祉士等が喀痰吸引等を行うことに係る制度 ① 社会福祉士及び介護福祉士法改正による制度 <u>2.3 保健医療制度とチーム医療</u> 3) 保健医療に関する制度 ① 保健医療に関する制度 ② 介護保険に関する制度 ③ 障害福祉に関する制度 ④ 地域保健に関する制度			

4) 医療的行為に関係する法律

- ① 医療的行為とは（法律的な理解）
- ② 医療的行為と医療従事者
- ③ 原則として医行為ではない行為
- ④ 医療の倫理
- ⑤ 医療倫理 4 原則

5) チーム医療と介護職との連携

- ① チーム医療とその実際
- ② 喀痰吸引と経管栄養についての医療職と介護職の連携

4.5.6 安全な療養生活

1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施

- ① 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性
- ② リスクマネジメントの考え方と枠組み
- ③ ヒヤリハット・アクシデント報告

2) 救急蘇生法

- ① 救急蘇生法の意義
- ② 救急蘇生の目的
- ③ 救急蘇生における法律
- ④ 心肺蘇生意思表示
- ⑤ 救急蘇生法とは
- ⑥ 究明の連鎖と市民の役割
- ⑦ 一次救命処置
- ⑧ 人工呼吸の手順
- ⑨ AED使用の手順
- ⑩ 気道遺物
- ⑪ 突然の心停止を防ぐために

7.8 清潔保持と感染予防

1) 感染予防

- ① 地域集団、施設・組織としての予防策
- ② 手洗い

2) 職員の感染予防

- ① 職員自身の健康管理
- ② ワクチン接種
- ③ 感染防護服（手袋やガウンなど）の装着
- ④ 職員に切り傷がある場合や風邪の場合

3) 療養環境の清潔、消毒法

- ① 居室、トイレ、キッチン
- ② 排せつ物、嘔吐物、血液や体液のついた物
- ③ 医療廃棄物の処理

4) 滅菌と消毒

- ① 消毒と滅菌について
- ② 消毒薬の使い方と留意点

9.10 健康状態の把握

1) 身体・精神の健康

- ① 健康とは
- ② 平常状態について

2) 健康状態を知る項目

- ① 意欲、顔貌、顔色、食欲、行動ほか
- ② バイタルサイン

3) 急変状態について

- ① 急変状態（意識状態、呼吸、脈拍、痛み、苦痛など）
- ② 急変時の対応と事前準備（報告、連絡網、応急処置、記録）

11～18 回高齢者及び障がい児・者の喀痰吸引概論

1) 呼吸のしくみとはたらき

- ① 生命維持における呼吸の重要性
- ② 呼吸のしくみと主な呼吸器官各部の名称・機能
- ③ 呼吸器官のはたらき（換気とガス交換）

2) いつもと違う呼吸状態

- ① いつもと違う呼吸状態
- ② 呼吸困難がもたらす苦痛と障害

3) 喀痰吸引とは

- ① 痰を生じて排出するしくみ
- ② たんの貯留を示す状態
- ③ 喀痰吸引とは
- ④ 喀痰吸引が必要な状態

4) 人工呼吸器と吸引

- ① 人工呼吸器が必要な状態
- ② 人工呼吸療法と人工呼吸器
- ③ 非侵襲的人工呼吸療法の場合の口腔内・鼻腔内吸引
- ④ 侵襲的人工呼吸器療法の場合の気管カニューレ内部の吸引
- ⑤ 人工呼吸器装着者の生活支援上の留意点
- ⑥ 人工呼吸器床着者の呼吸管理に関する医療職との連携

5) 子どもの吸引について

- ① 吸引を必要とする子どもとは
- ② 子どもの吸引の留意点

6) 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意

- ① 利用者の吸引に対する気持ち
- ② 家族の吸引に対する気持ち
- ③ 利用者・家族の気持ちにそった対応と留意点

- ④ 吸引実施に関する説明と同意
- 7) 呼吸器系の感染と予防（吸引に関連して）
 - ① 呼吸器系の感染が起きた可能性を示す状態
 - ② 呼吸器系の感染症
 - ③ 呼吸器系の感染の予防
- 8) 喀痰吸引により生じる危険、事故の安全確認
 - ① 喀痰吸引により生じる危険の種類
 - ② 危険防止のための医療職との連携体制（日常的な報告・連絡・相談）
 - ③ ヒヤリハット・アクシデントの実際と報告
 - ④ ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方
- 9) 急変・自己発生時の対応と事前対策
 - ① 緊急を要する状態
 - ② 急変・事故発生時の対応
 - ③ 急変・事故発生時の事前対策・医療職との連携体制の確認

19～25 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説

- 1) 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持
 - ① 吸引の必要物品
 - ② 必要物品の清潔保持（消毒薬・消毒方）
- 2) 吸引の技術の留意点
 - ① 実施前の観察
 - ② 実施準備（医師の指示等の確認、必要物品の準備・設置
 - ③ ケアの実施（利用者への説明、安全な実施・確認）
 - ④ 吸引後の片づけ方法と留意点
- 3) 喀痰吸引にともなうケア
 - ① 痰を出しやすくするケア
 - ② 体位を整えるケア
 - ③ 口腔内のケア
- 4) 報告および記録
 - ① 医師・看護職員への報告および連絡方法
 - ② 記録の意義と記録内容・書き方

26～32 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論

- 1) 消化器系のしくみとはたらき
 - ① 生命維持における栄養・水分摂取・消化機能の重要性
 - ② 消化器系器官のしくみと役割・機能
 - ③ 主な消化器系器官各部の名称と構造
 - ④ 嚥下のしくみ
- 2) 消化・吸収とよくある消化器の症状
 - ① 消化・吸収
 - ② よくある消化器の症状
- 3) 経管栄養とは
 - ① 経管栄養が必要な状態

- ② 経管栄養のしくみと種類
- 4) 注入する内容に関する知識
 - ① 経管栄養で注入する内容
 - ② 半固形化栄養剤（流動食）を使用する場合
- 5) 経管栄養実施上の留意点
 - ① 経管栄養実施上の留意点
- 6) 子どもの経管栄養について
 - ① 経管栄養を必要とすることとは
 - ② 子どもの経管栄養に使用する物品・使用法
 - ③ 子どもの経管栄養の留意点
- 7) 経管栄養をうける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
- 8) 経管栄養に関係する感染と予防
 - ① 経管栄養を行っている利用者の消化器感染について
 - ② 経管栄養を行っている状態の感染予防
 - ③ 口腔ケアの重要性
- 9) 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
 - ① 経管栄養により生じる危険の種類
 - ② ヒヤリハット・アクシデントの実際と報告
 - ③ ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方
 - ④ 危険防止のための医師・看護職員との連携体制（日常的な報告・連絡・相談）
- 10) 急変・事故発生時の対応と事前対策
 - ① 緊急を要する状態（症状）
 - ② 急変・事故発生時の対応
 - ③ 急変・事故発生時の事前対策・医師・看護職員との連携体制の確認

33～38 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順

- 1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持
 - ① 経管栄養の必要物品
 - ② 必要物品の清潔保持（消毒薬・消毒方）
 - ③ 挿入部の消毒および消毒液
- 2) 経管栄養の技術と留意点
 - ① 必要物品の準備・設置（環境整備を含む）と留意点
 - ② 経管栄養前の利用者の状態観察（呼吸状態・腹部の状態など）と留意点
 - ③ 経管栄養前の利用者の準備（体位・姿勢・プライバシー確保など）と留意点
 - ④ 経管栄養実施手順と留意点
 - ⑤ 経管栄養実施中の利用者の身体変化の確保と医師・看護職員への報告
 - ⑥ 経管栄養実施後の手順と留意点、利用者の身体変化の確認と医師・看護職員への報告
 - ⑦ 経管栄養終了後の片づけ方法と留意点
- 3) 経管栄養に必要なケア
 - ① 消化機能を促進するケア
 - ② 体位を整えるケア

③ 口腔内や鼻のケア

④ 胃ろう部（腸ろう部）のケア

4) 報告および記録

① 医師・看護職員への報告および連絡方法

② 記録の意義と記録内容・書き方

39 学科評価試験 試験対策

40 学科評価試験実施

※学習評価規定により判定

[使用テキスト・参考文献]

中央法規出版 新介護福祉士養成講座
第15巻「医療的ケア」
『介護職員によるたんの吸引等の研修テキスト』社団法人 全国訪問介護事業協会
2021

[単位認定の方法及び基準]

学科：学科評価試験 総正解率9割以上
出席100%

（学科試験不合格者：再試験の実施
欠席者：補講を実施）

※別紙 学習評価規定 参照